

今月は「咳ぜんそく」についてのお話です。



その咳、本当に“風邪の咳”ですか？

『風邪は治ったはずなのに、咳はちっとも治まらない。』といった状態が数週間続いたら、それは“咳ぜんそく”かもしれません。

“ぜんそく”というと驚かれるかもしれませんが、一般的に“ぜんそく”とイメージされる“気管支ぜんそく”との違いは、「ゼーゼー」「ヒューヒュー」といった喘鳴（ぜんめい）や呼吸困難はなく、呼吸機能も正常という点です。

“咳ぜんそく”って何？

咳ぜんそくは、痰がほとんど出ない乾いた咳が長期間続き、夜間から明け方にひどくなることが多いのが特徴とされる気管支の病気で、長引く咳の原因の第1位でもあります。人から人にうつることはありません。

咳ぜんそくは、好酸球性の気道の炎症のために、①喉から気道が色々な刺激（寒暖差、気圧の変化、におい、煙など）に過敏に反応する事と、②気道の先端が狭くなる事で咳の発作が起こります。

風邪に併発して起こることが多く、風邪をひいたあとに2～3週間以上咳が続くことがあれば、咳ぜんそくの可能性を疑います。

どんな検査をするの？

咳ぜんそくと診断するには、①詳しい問診 ②診察 ③胸のレントゲン写真 ④一酸化窒素（FeNO）検査 ⑤呼吸機能検査などを必要に応じて行います。



「いつもの風邪と違う」「咳が長引く」「風邪の薬を飲んでいるけど良くならない」など気になる症状がある時は、我慢せずに一度ご相談ください。

どんな治療をするの？

咳ぜんそくの咳は、気道の過敏性と収縮が原因です。風邪の時と咳が出る原因が違うため、咳止めや、抗生物質の効果は期待できません。

吸入ステロイドと気管支拡張薬の配合剤を使用するのが標準的な治療方法となります。

『吸入ステロイド薬』は、①の好酸球による気道が過剰に反応する原因となっている炎症を改善します。

（効果が実感できるまで3～5日かかります）

一方、『気管支拡張薬』は、②の狭くなった気道を広げる働きをします。（吸入直後から効果を実感できます）

すぐに咳が治まらないからといってあわてずに、処方された日数分のお薬を指示された回数吸入するようにしましょう。



『咳だけだから…』と油断しないで！

“咳ぜんそく”と“気管支ぜんそく”は異なるものですが、“咳ぜんそく”は“気管支ぜんそく”の前段階とも言われています。

咳ぜんそくの適切な治療を受けなかった場合、約30%が典型的な気管支ぜんそくに移行したというデータもあります。『咳だけだから…』と油断しないで、治療を受けましょう。

また、『咳がでなくなったからもういいや』と、自己判断で治療を中断すると咳ぜんそくが再発する場合も少なくありません。治療に必要な期間や休薬できるかなどは人それぞれで違います。途中で治療をやめてしまわずに、きちんと治しておくことも大切です。